

意欲的に英語を話すことができる生徒の育成

—やり取り型タスクの実践を通して—

篠宮 広樹¹ 鈴木 桂子¹ 大瀧 綾乃²

(静岡大学教育学部附属島田中学校¹ 静岡大学教育学部²)

Developing Motivated English-speaking Students through Interaction Language Activities Based on Task-Based Language Teaching

Shinomiya Hiroki Suzuki Keiko Otaki Ayano

要旨

「平成 31 年度全国学力・学習状況調査の結果」(国立教育政策研究所, 2019) では、「『話すこと(発表)』の言語活動を行った」と回答した中学校は 81.1%、「『話すこと(やり取り)』の言語活動を行った」と回答した中学校は 65.6%に留まった。「即興で自分の考えを英語で伝え合う言語活動や、聞いたり読んだりした内容について英語で書いてまとめたり自分の考えを書いたりする言語活動を行っている学校と行っていない学校では、『英語の勉強が好き』という生徒な割合に 2 倍以上の大きな差が出ている (p.18)」との現状が明らかになった。本校においては継続して「話すこと(発表)」の言語活動に取り組んできており、事前に準備したスピーチにおいては自信をもって話すことができている生徒が増えている。一方で、即興性のあるやり取りにおいては楽しさを感じてはいるものの、言葉が出てこなかったり、文法ミスを恐れたりする中で、伝わっているかどうか不安を抱えている生徒がおり、苦手意識をもっている。このため本実践では「生徒にとって魅力的なやり取り型タスク活動を効果的に課すことで、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することができる。」という仮説のもと授業改善に取り組んだ。その結果 9 割以上の生徒が英語で話す力がついた、意欲的に取り組むことができたと答えたことから、本実践は生徒の英語を話す力と意欲を高めることができたと考えられる。

キーワード： タスク 話すこと やり取り ルーブリック パフォーマンス評価

1 本実践の目的

平成 28 年 12 月に行われた中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」において、「グローバル化が急速に加速する現代における、外国語によるコミュニケーション能力はこれまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたり必要となること(p.192)」、「指導改善による成果が認められるものの、学年が上がるにつれて児童生徒の学習意欲に課題が生じるといった状況(p.192)」、「中・高等学校においては、文法・語彙等の知識がどれだけ身についたかという点に重点が置かれた授業が行われ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていないことや、生徒の英語力では、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて適切に表現すること(p.192)」に課題があることが指摘された。それらを受け平成 30 年改訂学習指導要領(文部科学省, 2017)では、「簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること(p.10)」が目標に設定され、その手段としての言語活動である「話すこと(発表)」、「話

すこと(やり取り)」の重要性が挙げられた。しかし、「平成 31 年度全国学力・学習状況調査の結果」(国立教育政策研究所, 2019) では、「『話すこと(発表)』の言語活動を行った」と回答した中学校は 81.1%、「『話すこと(やり取り)』の言語活動を行った」と回答した中学校は 65.6%に留まった。同調査では、「即興で自分の考えを英語で伝え合う言語活動や、聞いたり読んだりした内容について英語で書いてまとめたり自分の考えを書いたりする言語活動を行っている学校と行っていない学校では、『英語の勉強が好き』という生徒な割合に 2 倍以上の大きな差が出ている (p.18)」とされており、コミュニケーションを図るための資質としての、自信や意欲をもって自分の思いや考えを友達に伝えるということができない生徒が多い現状があると考えられる。

本校では、「発表型・やり取り型 二領域統合型言語活動」を教科テーマに設定し、3 年間スピーチメインの言語活動を繰り返し行ってきた。成果として、2023 年 3 月に 2 年生を対象に実施した質問紙調査によると 100%が「英語の勉強は大切だと思う」と考え、96%の生徒が「発表型のタスク活動に意欲的に取り組んだ」と回答しており、生徒が意欲的に話すこと(発表)の言語活動に取り組んできたことが明らかになった。一

方でやり取りを単元の軸に置いた言語活動は十分に行えておらず、「英語の授業では、安心して英語で話すことができている。」と答えた生徒は63%に留まった。自由記述では、「事前にある程度準備ができるスピーチでは自信をもって話せるが、ディベートやディスカッションなどでは、相手の話をその場で理解し、即興的に話すことをまとめなければいけないから難しい」「その場でのやり取りは楽しいが、単語がすぐに出てこないことがあり、文法的にもミスが起こりやすく、伝わっているか不安に感じる時がある」などの意見が見られた。このことから本校の生徒も、事前にある程度予測ができ、準備ができる発表活動には自信をもって取り組める生徒が多い一方で、即興的に情報を整理し、自分の意見を英語で伝える活動では、自信や意欲をもって自分の思いや考えを友達に伝えるということができない生徒が多いことがわかった。

そこで、研究主題を「意欲的に英語を話すことができる生徒の育成～やり取り型タスクの実践を通して～」と設定し、生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されるよう、これまで本校にて取り組んできた研究同様 Task Based Language Teaching (TBLT) をベースに、やり取り型タスク活動を効果的に設定し、「生徒のコミュニケーションを図る資質・能力の育成」を目指した。

本校英語科では、これまで「書くこと」「話すこと（発表）」型タスクを継続的にバランスよく設定してきたが、新たに年間3回のやり取り型タスクを設定した。TBLT をベースにしたやり取り型の言語活動は、意味の理解・伝達を重視しており、伝えたいメッセージを即興的に言語にしなければならぬため、生徒への認知的な負荷が高いと考えられることから、教師は生徒の認知的負荷をコントロールし、言語活動をサポートすることが求められる(新多, 2018)。本実践では生徒が思わず「やりたい」と思える魅力的なタスクを年間通じて課し、失敗から修正し、成功する体験を繰り返すことにより「コミュニケーションを図る資質・能力」を高めていく。よって本実践では(1)の研究仮説を設定し、(2)の方法を通して検証することにした。

(1) 研究仮説

生徒にとって魅力的なやり取り型タスク活動を効果的に課すことで、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することができる。

(2) 研究方法（検証の手だて等）

1. やり取り型タスクの充実
2. 帯活動の充実

- ・スモールトーク
- ・スモールディスカッション、
- ・スモールディベート

2 実践研究経過

2. 1 やり取り型タスクの充実

① 第2 学年授業実践（7 月）

Task	Amazing jobs!～日本にしかない仕事を静大の留学生に紹介しよう～
単元 目標	静大の留学生に日本のことを知ってもらえるように、「日本にしかない仕事」について、調べたことや自分の考えなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えることができる。

本項では『New Horizon2』Unit3 “My Future Job” における取組について述べる。本単元では、AI 技術の進歩によって今ある仕事の中で将来なくなっていくものがあると知った登場人物のアサミが、通訳の会社に職業体験に行き、AI にとって代わられるものもあるがその中でも人間の力を必要とする仕事があることを知る。そのアサミの職業体験を題材にしなが、不定詞の副詞的・形容詞的用法と“It is ...+to +動詞の原形”を用いた文を学習する。

今年度、生徒たちは4月に長野で民泊体験をし、そこで暮らすホストファミリーの生活や仕事を体験し、6月に3 学年合同の行事報告会・生き方学習会でこの経験についてプレゼンテーションを行った。生徒は、この学習を通して「仕事・生き方」について考えてきており、アサミの職業体験と自らの体験をつなげて考えることができる。

本単元のタスクは、静大の留学生に日本にしかない“Amazing Jobs”を紹介することと設定した。生徒たちに、この9月に来日するタイからの留学生から届いた「自分たちが来日したら日本にしかない仕事を教えてほしい」というメッセージを提示することから、本単元の学習をスタートした。「日本にしかない仕事」を友達と話すことで、自分の考えを相手に知ってもらったり、相手の考えについて今まで知らなかった新しい発見をし、英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを感じさせたい。また「日本にしかない仕事」を留学生たちに発信することが、その仕事を色々な人に知ってもらうきっかけとなり、これからも続いていく仕事になるという視点も持たせたいと考えた。

生徒たちは最初30 秒程度の短い“Amazing Jobs”の紹介を行う。それに対する相手の質問に対して（自分が調べた知識を基に）即興でやり取りを行う。「即興で英語でやり取りを行うこと」に、意欲的に自信を持って取り組めるための土台となる活動としたいと考え、

このようなタスクを設定した。本タスクを達成するために資料1に示す評価表を配付し、目指す姿を生徒と共有した。評価表での目標の確認と事後の自己評価については1年時より積み重ねてきている。3観点の基本的な評価基準に加え、今回のタスクを達成するための要素を条件として3つの条件を設定した。やり取りの条件として質問に適切に答え、更につながりのある事柄を付け加えて話を深められることに加え、聞き手にも発言を求めながら話題を広げていくことでやり取りが充実すると考えた。

単元構成を以下のように考えた。第1時から第8時まで、本文内容及び新出言語材料の学習とタスクの準備を交互に行っていた。インプットとアウトプットを行き来しながら単元を進めていくことで学んだことを自らの表現に生かす姿が見られるのではないかと考えた。その中で4回のやり取りを設定した。1回目は「どんな仕事があるのか」の短い紹介を伝えるやり取り、2・3回目は、1回目のやり取りにつなげて、「その職人がなぜその仕事をえらんだか」などの情報を付け加えてやり取りをし、やり取りの中で質問に対して自分が答えられなかったことを付け加えていった。4回目は留学生に伝えるために完成させた紹介をお互いに聞き、質問し合うやり取りである。どのやり取りも“Amazing Jobs”というテーマは共通だが、情報をつけたしながら、徐々に自信を持って安心してやり取りができるようにしていきたいと考えた。

実際の発表は、タイからの留学生3名が来校し、教室で3グループに分かれ、図1に示すように留学生との1対1のやり取りを12人の聴衆が見守る形で行った。やり取りは発表者を替えて以下の手順で行った。

- | |
|--------------------------|
| ①30 sec short suggestion |
| ②2 min Q&A time |

本実践の成果として、生徒が意欲的に英語でのやり取りに取り組んだことが挙げられる。表1に示す単元の終末に行った質問紙調査の結果によると、この短い提案→やり取り型タスクに意欲的に取り組み、即興的に話す力がついたと感じている生徒が多いということがわかる。

表1 質問紙調査の結果 (五件法, 回答者 105名)

	肯定率	平均値
今回のタスクに意欲的に取り組むことができた。	95.2%	4.6
今回の単元に取り組むことで話す力が向上したと感じる。	89.4%	4.4

同調査の自由記述欄には、「自分の英語が他の国の人にも通じて会話することができたので、とても楽しかった。」「実際に相手がいるところで話してみるととても楽しかったです。どうやったら伝わりやすいか

を考えて、内容・話し方を意識しました。生まれた国が違っても英語は伝わって、英語は良いなと思いました。」「外国人と話す時、共通言語の英語の力はすごいなと思いました。改めて、英語の大切さに驚かされました。」「などの記述があり、留学生との再度の交流を望む声が多く見られた。今回交流した留学生は来日したばかりのタイ人で、第二言語として英語を学んできた人たちである。この活動の中で、実際に英語を使ってコミュニケーションし自分の思いを伝える経験を通じて、自分の英語が相手に伝わる喜びや、第二言語として英語を学んだ者同士が英語を共通言語としてコミュニケーションする楽しさを感じる姿が見られた。単元の中で英語を話す必然性のあるタスクを設定する重要性を実感した。

一方で課題としては、即興でやり取りする際の音声面、文法面での不正確さがあげられる。30sec short suggestionの部分と2min Q&A timeを比較すると、即興でやり取りをする2min Q&A timeの方に不正確が見られた。音声面では正しいアクセントが意識できなくなったり、流暢に話せなくなったりする表れが見られた。文法面では、文ではなく、単語の羅列で話してしまったり、時制を意識できなくなってしまうかしていた。生徒のアンケートにも「質問されたときに固まってしまったので、質問されたことに対して即座に答える力をつけたいと思った」などの記述が見られた。しかし「考えながら話すことが英語だとできなかったので、今までは文章を組み立ててから話していたが、今回の授業を通して、英語を組み立てながら話すことができるようになった」「英語の質問に答えるので、完璧には答えられなかったし迷ってしまう時間もあつたけれど、その場で文法と英単語を考えて話すことが少しはできるようになった」など自身の成長を実感する声も多く聞かれた。また「相手に日本にしかない仕事の魅力を紹介する上で、もしあなたが～ならば、という意味のifを積極的に使うことができたり、自分の実際の経験を話す場合には、～した時という意味のwhenをたくさん使うことができた」など、既習文法を活用しながら自分の伝えたいことを話せたことを実感する声も聞かれた。

今後は、2月に留学生との交流第2弾として、“Welcome to my hometown ～静大の留学生が行ってみたいくなるようなふるさと自慢をしよう！～”というタスクを行う予定である。このタスクの中では友達との話の内容をきちんと把握し、文法的な正しさも意識しながら繰り返しまとめる活動を取り入れていく。生徒が思わず話したくなるような魅力的な場面設定を大切にしながら、文法的な正しさも身に付けられるような手立てを工夫していきたい。

2nd year U3 Task Evaluation		年 組 番 氏名	
【評価規準】			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
・不定詞の副詞的・形容詞的用法や “It is ... + to + 動詞の原形”を用いた文の構造を理解している。 ・「日本にしかない仕事」について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、不定詞の副詞的・形容詞的用法“It is ... + to + 動詞の原形”などの文を用いて話す技能を身に付けている。	静大の留学生に日本のことを知ってもらえるように、「日本にしかない仕事」について、調べたことや自分の考えなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	静大の留学生に日本のことを知ってもらえるように、「日本にしかない仕事」について、調べたことや自分の考えなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手に配慮しながら質問に答えたりしようとしている。	
【条件】 ①聞き手の質問に対して適切に答えている。②答えに対してつながりのある事柄を話している。 ③相手に考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。			
【評価基準】			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	強勢、イントネーション(抑揚)、区切りなど基本的な英語の音声を押さえながら、ほぼ誤りのない正しい英文で話すことができる。	3つの条件を満たした上で、「日本にしかない仕事」について、調べたことや自分の考えなどを整理し、簡単な語句や文を用いて、相手からの質問に答えている。	積極的に聞き手とやりとりをしながら、絵や写真を効果的に用いたり、相手に聞きやすい声量や速さ、強弱などを意識するなど、相手に配慮しながら話そうとしている。
B	誤りが一部あるが、理解に支障がよい程度の音声や英文を用いて話すことができる。	2つ以上の条件を満たした上で、「日本にしかない仕事」について、調べたことや自分の考えなどを整理し、簡単な語句や文を用いて、相手からの質問に答えたりしている。	聞き手とやりとりをしながら、絵や写真を用いたり、相手に聞きやすい声量で話すなど、相手を意識しながら話そうとしている。
C	「 B 」を満たしていない。	「 B 」を満たしていない。	「 B 」を満たしていない。
評価	強勢 抑揚 区切り 発音 文法	内容・思いや考え・まとめ	明瞭さ 声量 速さ 視線 聞き手が理解しやすい内容 やりとり
①「静大の留学生に日本のことを知ってもらえるように、『日本にしかない仕事』を伝えよう」というタスクを達成することができた。 【5 4 3 2 1】			
① 今回のTASKに意欲的に取り組むことができた。【5 4 3 2 1】			
② 今回のTASKに取り組むことで英語で即興的に話す力が向上したと感じる。【5 4 3 2 1】			
③ 今回のTASK取り組んでできたことでできなかったこと			

図1 タイ人留学生との交流会の様子



② 第3学年授業実践 (9月)

Task	自分の意見を論理的に伝えよう！「動物園って廃止すべき？」
単元目標	自然保護を推進するために、動物園の是非について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとめのある内容を論理的に伝え合うことができる。

本項では『New Horizon 3』Unit 3 “Red List”における取組について述べる。本単元の題材は、登場人物のメグが動植物の絶滅危惧種をまとめたレッドリストに関するポスターを見つけ、登場人物それぞれが絶滅の危機に瀕する動物について記事にまとめるものである。平成24年に公表されたIUCNのレッドリストによると、絶滅の危機に瀕しているものは65518種が登録されている。教科書で紹介されているゴリラやパンダなどは、動物園で人気があり、日本人にもなじみのある動物であるため、それらの絶滅は人類にとって悲しいことであり、人間が保護し守っていかねばならないという思いをもつことが予想できる。教科書では単元を通して“Why should we protect endangered animals? What can you do to protect them?”という問いが示されている。「ゴミを減らす」「紙を大事にして森林を守る」などの間接的な解決策を考えることは容易であるが、直接的な動物保護の解決策を個人が提案することはかなり難易度が高い。そこで、本単元のタスクは馴染みのある「動物園」の存在是非に関するものとし、誰もが考えやすいものにしたと考えた。日本動物園水族館協会によると、動物園の役割には「種の保存」、「教育・環境教育」、「調査・研究」、「レクリエー

3rd year U3 TASK Evaluation		年 組 番 氏名
【評価規準】		
知識・技能 ・仮主語や【help+(ひともの)+動詞の原形】を用いた文の特徴や決まりを理解している。 ・動物園の是非について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、伝える技能を身に付けている。	思考・判断・表現 自然保護を推進するために、動物園の是非について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を論理的に伝えあうことができる。	主体的に学習に取り組む態度 自然保護を推進するために、動物園の是非について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を相手に配慮しながら論理的に伝えあうことができる。
【条件】 ①客観的な根拠やデータを示している②相手の意見に対する反論を述べている③表現を工夫して論理的に述べている		
【評価基準】		
	知識・技能	思考・判断・表現
a	強勢、イントネーション(抑揚)区切りなど基本的な英語の音声を押さえながら、ほぼ誤りのない正しい英文で話すことができる。	3つの条件を満たした上で、動物園の是非について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を伝えあっている。
b	誤りが一部あるが、理解に支障がない程度の音声や英文を用いて話すことができる。	2つ以上の条件を満たした上で、保護が必要な動物や植物について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えあっている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。
自己		自己
評価	語彙 文法 発音 流暢さ	客観性 反論 表現 まとまり
		自己
① 「自分の意見を論理的に伝えよう！動物園って廃止すべき？」というタスクを達成することができた。【5 4 3 2 1】 ② U3 Task に意欲的に取り組むことができた。【5 4 3 2 1】 ③ U3 Task 1に取り組むことで話す力が向上したと感じる。【5 4 3 2 1】 ④ U3 Task 1に取り組んでの感想		

ション」という4つの役割があるとされている。一方で現代社会では動物園の存在について疑問を呈している声も発生している。主な理由としては「種の保存の役割が果たせていない」、「本来共に生きるはずだった場所や家族と引き離されてしまうことによる動物の権利の侵害」、「人間の娯楽となってしまっている倫理的問題」が挙げられている。これら二つの側面を鑑み、両者の意見を交わすことで、「動物の保護」について考えを深められるのではないかと考え、タスクを「話すこと『やり取り』」型のディベートとして設定した。

生徒はこれまで、発表型、やり取り型の二領域統合型言語活動として、聞き手とやり取りしながら自分の思いをわかりやすく相手に伝える活動を継続的に行ってきた。事前に話したいことを整理、準備することで、相手の意見も聞きながら5分程度の発表をすることには慣れている。しかしながら、相手の意見の概要をその場でつかみ、その場で自分の意見を構築して伝える活動にはまだ慣れていない。本単元を通して、即興的に論理的な考えを相手にわかりやすく伝える力を養いたいと考えた。そのために、資料2に示す評価表にあるようにディベートには(3)の3つの条件を設定した。

(3) ディベートにおける3つの条件

- ① 客観的な根拠やデータを示している。
- ② 相手の意見に対する反論を述べている。
- ③ 表現を工夫して論理的に述べている。

単元構成を以下のように考えた。まず第1時から第3時にかけて本文内容及び新出言語材料について学習し、第4、5時にかけ賛成反対の立場の決定とディベートの準備を行う。第6時に同意見同士で練習を行い、第7時にプレディベートを行う。実際にやってみて気付く課題を第8時に修正する時間と設定し、第9時にディベート本番を迎える。ディベートは賛成と反対に別れ、1対1で行う。本単元で学習した言語材料だけでなく、これまでに学習してきた既習表現を交えながら、わかりやすく相手に伝え合う姿に期待した。

実際の発表は教室で6グループに分かれ、図2に示すように1対1のディベートを4人の聴衆が見守る形をとった。ディベートは次のような手順で主張者を替えてそれぞれ行った。

- ① 2-minute Main Opinion
- ② 1-minute Thinking Time
- ③ 4-minute Debate

ディベート表現			
2023.6.23 ver.			
Name()			
聞き手			
	English	日本語	チェック
確認	What do you mean?	どういうことですか？	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	What does ~ mean?	~はどういう意味ですか？	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	Are you sure?	本当ですか？	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	Do you mean ~?	~ということですか？	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	Pardon me?	もう一度言ってください。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	I don't know what you mean.	どういうことなのかわかりません。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
反応	Seriously?	本当に？	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	Exactly.	その通りです。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	That's right.	その通りです。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
根拠の要求	Who said that?	誰が言ったんですか？	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	Where is it from?	どこからの情報ですか？	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	Where did you find it?	どこで知りましたか？	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	Give me an example.	具体例をください。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	Who knows?	誰が知っているの？	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
賛成反対	Who cares?	誰が気にするの？	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	I agree with you.	あなたに賛成です。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	I disagree with you.	あなたに反対です。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	I don't think so.	私もそう思いません。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
反対	I think so, too.	私はそうは思いません。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	I have a different opinion.	私の意見は違います。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	May I ask you a question?	質問してもいいですか？	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	By the way	ところで	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
話し手			
	English	日本語	チェック
つなげる	Speaking of ~,	~と言えば	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	It is said that ~,	~とされています。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	On the other hand,	一方で、	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	For one, ~, for another~	一つは~, もう一つは~	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	It doesn't make sense.	筋が通っていない	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

図2 生徒がディベートをする様子



本実践の成果として、生徒が意欲的に英語でのやり取りに取り組んだことが挙げられる。表2に示す単元の終末に行った質問紙調査の結果によると、このディベート型タスクに意欲的に取り組み、即興的に話す力がついたと感じている生徒が多いということが明らかになった。

表2 質問紙調査の結果 (五件法, 回答者 105名)

	肯定率	平均値
今回のタスクに意欲的に取り組むことができた。	98%	4.8
今回の単元に取り組むことで話す力が向上したと感じる。	96%	4.6

同調査の自由記述欄には「もっと即興的に話す力をつけたいと思うので、また自分たちで話題を決めてディベートをやりたい」「ディベートをすることで自分の英語力を高める他にも相手の意見を理解し、反論をすることで自分の意見を正当化できるような仕方を学習できると思った。そして自分たちの勝敗を判定する人に対してわかりやすく共感させられるような言葉を使うことも大切だと思った」などの感想が見られ、繰り返しディベート型タスクに取り組んだことで成長を感じるとともに、更に次の目標に向かう意欲を掻き立てていることがわかった。

一方で課題としては音声面や文法面でのエラーの多さが挙げられる。ディベート中の生徒の発話を見直す

と、2分間の主張と比較すると4分間のディベートの場面では「I think ~」と自分の意見を字話す場面で「th」の音が「s」になってしまったり、「think」、「don't」、「should」などの単語における最後の子音に母音がついてしまったりするなどの日本人特有の発音の違いが顕著に見られた。準備ができる2分間の主張の中ではできていることが多いため、即興的な場面でも発揮することができるよう、今後も即興的に話す機会を継続して設けていくことに加え、定期的に自分の話す姿を客観的に見て評価する必要があると感じた。

2. 2 帯活動の充実

即興的にやり取りをする力をつけるために3年間を通して下記①から③の帯活動に取り組んだ。

① Small Talk Record

ペアで1分間のスモールトークを行い、その後3分間で会話をプリントに書き起こした。さらにペアを替え、書き起こしたものを添削した。話したり書いたりした中で表現したくてもできなかったものに関して小集団で考え全体で共有した。日常的な話題について即興的に話す力をつけるとともに、その正確性にも目を向けた。日本語をそのまま英語にしようとするや難解な表現でも、言い方を変えれば意味が伝わることを学んだ。

② Small Discussion

代表の生徒が自分で決めたトピックについて自分の考えを1分程度のスピーチを行い、その話題についてペアで2分間考えを述べ合った。自分の考えに根拠をもたせて意見を言う習慣をつけた。また、次のディベートにつながるよう批判的思考も促した。

③ Small Debate

代表の生徒が自分で決めたトピックについて自分の考えを1分程度のスピーチを行い、ペアでじゃんけんをし、立場を決めた。このときの立場は自分の話したい立場とするのではなく、勝ち賛成、負け反対などのように、機械的に立場を決めることとした。その後2ペアで2分間のディベートを行った。生徒には資料3に示すディベート表現表を配付し、「トークからディベートへ」を合言葉に、ディベートにふさわしい言葉の使用を練習した。自分の立場をはっきりさせることや、相手の言葉を引用することなどを促した。

3 成果と課題

今年度「意欲的に英語を話すことができる生徒の育成」を目指し、魅力的な「やり取り型タスク」の設定を行い授業改善に取り組んだ。3年生対象の質問紙調査によると、93%の生徒がやり取り型タスクに取り組むことで英語で話す力がついたと答えている（平均4.6）。また、97%の生徒が帯活動に意欲的に取り組んでいると答えている（平均4.8）。やり取り型タスクを

設定することで帯活動に意欲的に取り組み、力をつけた。また、やり取り型タスクでつけた力を発揮する良いサイクルができていたことで、生徒の英語を話す意欲を向上することができていたと考えられる。また、「英語の授業では、安心して話すことができています。」の質問に関しては1年の3月では63%に留まっていた肯定率が3年時には80%まで高まった（平均3.6→4.1）。2年間、帯活動、タスク両面で繰り返しやり取り型の言語活動に繰り返し取り組んできたことで自信と力をつけてきたことが自由記述欄の文章からも明らかになった。したがって本実践は、(1)に提示した研究仮説「生徒にとって魅力的なやり取り型タスク活動を効果的に課すことで、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することができる」を支持する結果を得ることができ、生徒の英語を話す力と意欲を高めることができたと考えられる。

資料4 質問紙調査の自由記述欄

・実践的な英語力を身につけることができたのが、タスクだった。特にディベートは即興的な英語力が問われるもので、初めはとて苦勞した。しかし、回数を重ねていくごとに、それらができるようになり、最近では日本語で意見を考えるだけで、本番にのぞむことができるようになった。

・私は英語を書くことはできるにもかかわらず、話すとなると伝えたいことはあるのに英語にすぐ変換できず、詰まってしまうことが多くありました。しかし、学校のタスクはスピーチやディベートが多く、こなしていくうちにジェスチャーを交えながら英語で相手に伝えることができるようになりました。一つ一つのタスクを終えるごとに力がついたと実感できてとても嬉しかったです。

・自分が知っている言葉ですぐに文を作ることができるようになりました。簡単な言葉でわかりやすく伝えることと、知っている単語を増やし難しい単語も使っていくことも大切にしたいです。3年間で特に即興的に話す力がついて、毎回のスモールトークで言葉につまることがあまりなくなり、ディベートでもすぐに返せるようになりました。

今後の課題は即興性のある活動においても正確な英語を話せるようにする手立てである。一つ目に、「話すこと（発表）」の活動でも同じことが言えるが、発音、イントネーション、リンキングなどの音声面には課題がある。日本人中学生同士であれば問題なく対話が成立しているが、タイ人の留学生との交流ではコミュニケーションに支障が生じていた。二つ目に文法的な正確性である。伝えたい思いがあつてなんとか単語を並べるものの、正確性が低いために伝わらないことが多く見られた。即興的な対話もやっただけで終わり

にならず、自分たちの対話をビデオで見返す活動や、生徒同士で修正し合う機会をより多く設定する必要がある。今後もタスクだけが独立するのではなく、タスクをベースに帯活動や教科書の活用など、3年間を見通した単元のデザインをし、さらなる授業改善に取り組んでいきたい。

参照文献

- 中央教育審議会 (2016). 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf (2023年4月10日閲覧)
- 国立教育政策研究所 (2019). 「平成31年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」
<https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/19summary.pdf> (2023年4月10日閲覧)
- 文部科学省 (2017). 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』 東山書房
- 日本動物園水族館協会 「日本動物園水族館協会の4つの役割」
https://www.jaza.jp/about-jaza/four-objectives_
(2023年5月12日閲覧)
- 新多了 (2018). 「第5章 英語学習の共通性：第二言語習得のプロセス」 酒井秀樹・廣森友人・吉田達弘（編）『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』（pp. 90–113）. 大修館書店.
- 中学校英語検定教科書（令和2年検定済）
『New Horizon English Course 2』 東京書籍
『New Horizon English Course 3』 東京書籍